

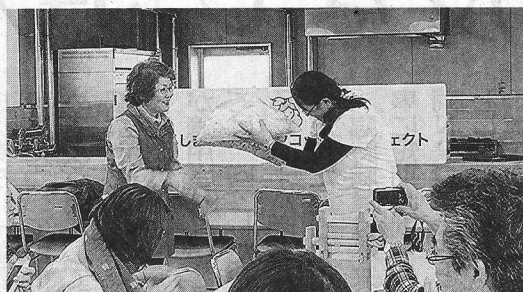
東北復興日記



166

「私たちが板橋区内で育てた茶綿一・一鈴、白綿五百鈴です」。先月二十二日、福島県広野町内で開かれた収穫祭で、私たちは、ふわふわの綿を「いわきおてんとSUN企業組合」代表理事の吉田恵美子さんに手渡すことができました。写真。

東京の板橋区民と一緒にコットンを育てるため、今年、



NPO法人
いた・エコ・ネット理事長
横山れい子さん



板橋の綿 広野町に里帰り

立ち上げた「いたばしコットンプロジェクト」は、いわき市を中心に進められている「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」との出会

いから始まりました。昨年六月、NPO法人JKSKからお誘いを受け、ふくしまオーガニックコットンを応援するボランティアとして、広野町にある綿畑の苗の定植に区民八人で参加しました。

暑い日差しの中、汗を流しての作業で、植えた苗の成長に思いをはせながら福島や広野町の復興に、板橋区民として何かできないかという思い

を強く持ちました。秋の収穫に参加しましたが、オクラの花に似た黄色い花や、はじけたコットンボールからのぞくふわふわのコットンに感激。コットンを通して広野町とつながることをたくさんの人と共有したいと思いました。いたばしコットンプロジェクトでは、今年五月十六日、吉田さんを板橋区にお招きし、復興の取り組みをお話しいただくとともに板橋のボランティアセンターの花畑に、区民三十五人で種まきをしました。市民農園や自宅ベランダのプランターなどでも栽培するため、参加した方々に種を

持ち帰っていただきました。

八月中旬から雨の日が多く、日照不足のせいか、花がコットンボールにならなくて気をもみましたが、それでも皆さんが育てた綿をたくさん収穫することができました。無事、広野町に綿の里帰りを果たすことができました。

今後は区内の公園の使用や、小・中学校での栽培を通じた環境教育などを行い、栽培面積や収穫量を増やし、福島浜通りの皆さんと交流を続けていきたいと考えています。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。